



会報 第34号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校 同窓会
● 編 集 ●
同上編集委員会
印刷所 ●
(株) 杉 山 印 刷

創立百周年を再び思う



同窓会会長
小坂利雄

百周年の思いがつきま
せんで更に稿を進めた
と思います。

昭和十年頃現在の北陵
高の東側一帯は茫漠たる
原野で發育不全の松の木
が、三々五々にスキの
原の中に生えていた国有
地でありました。したが
って芳賀地方もまだ未開
の地が多く原野が各所に
広がっていたものと思わ
れます。史実によると家
康が秀吉に関東の地を与
えられてから本格的な開
拓が始まったようですが、

それまでは利根川、鬼怒
川、小貝川が乱流した未
開の氾濫平野でありまし
た。宝積寺台地西側の流
路沿いと東側、現在
は小貝川の上流となつて
いる地域は、いずれも鬼
怒川が作った扇状地であ
り氾濫平野でありました。
また、鬼怒川で削り取ら
れた十m程度の階段状の
崖が残っています。

江戸時代には乱流する
河川の流路を固定した流
れにし、広大な氾濫原を
水田として開発したり、

治水事業が盛んに行われ
るようになり、江戸中期
には一千万の人口が百年
後には三千万の人口に増
加する生産基盤になった
といわれています。明治
に入り治水、水利事業を
含めた土地改良事業が進
展し現在に至るわけであ
ります。

芳賀地方の先人たちが
将来の芳賀地方の農業振
興を展望し芳賀郡立農林
学校を創立し青年の教育
に尽力した先見性は心か
ら敬服するばかりです。
現在芳賀地方の水田面積
は千八百haありその内
八十%が近代的な土地
改良事業が完了してお
ります。

これらは、昭和四十年
から、昭和四十年
身の人材も「篤農たれ」
なかつた優秀賞を受賞す
ることができました。酪
農部門では、栃木県ホル
スタイン共進会で未軽産
牛の部で名誉賞をいただき、
関東ホルスタイン共
進会においても本県農業
高校初の準名誉賞を受賞
しました。これらは、日
頃から先生方の指導および
本人の努力による練習の成
果はもちろんです。同窓
会員の皆様の温かい御支援
の賜と存じます。あらため
て深く感謝申し上げます。

これからも、部活動、
農業クラブ活動等の活性
化を促進し、加えて地域
に支えられ信頼される学
校づくりを目指していき
たいと存じます。そのた
めには、同窓会員の皆様
のより一層の御支援と御
協力をよりしくお願い申
し上げます。

今年度を振り返って



学校長
月井誠一

同窓会の皆様には、日
頃から本校の教育活動に
対し、温かいご理解とご
支援を賜りまして、誠に
ありがとうございます。
今年度は、一〇〇年に一
度と言われる世界的な経
済不況と新型インフルエ
ンザの猛威にさらされ、
加えて政権が交代し、政
治、経済、福祉、そして
教育等様々な分野で先が
読めない混沌状態となつ
ております。本校におい
ても、経済不況の影響を
受け、進路指導、とりわ
け三年生の就職活動がか
なりの苦戦を強いられま
した。残念ながら、例年

のような内定率までは至
りませんでした。最後の
最後まで就職希望生徒
全員の内定が達成される
よう指導していく所存で
す。インフルエンザの影
響では、一年生を中心に
学級閉鎖や学年閉鎖とな
り、一般公開の学校祭の
中止等学校行事にも一部
影響が出てまいりました。
今後とも、家庭との連携
を緊密にして、注意深く
生徒の健康管理に努めて
いきたいと思ひます。

一方、今年度も様々な
分野で生徒の活動の成果
が出ました。部活動では、
ライフ射撃部がエアー

ライフ射撃部でインター
ハイ二連覇を果たし、ピ
ームライフも優勝しま
した。また、陸上部八〇
〇m競技においては、三
年生の仁平裕也君が県大
会、関東大会を勝ち抜き
インターハイに出場しま
した。さらに、新潟県で
行われた国民体育大会に
おいて、本校からライフ
射撃部と陸上部併せて
四名の選手が出場し、特
にライフ射撃部の三年
生 萩原 光君は栃木県
代表として県旗を持って
開会式に臨み栄誉を得ま
した。そして、農業クラ
ブ活動では、茨城県で行
われた農業クラブ全国大
会の農業鑑定競技大会に
おいて農業及び農業機械
コースで優秀賞、平板測
量競技大会においては、
本県では今まではほとん

代からの事業ですが、事
業発足の準備委員会から
土地改良区の組織立ち上
げ、事業完成まで役職員
の大部分は本校の卒業生
であります。創立時にか
げました芳賀地方の農
業振興の礎になれたの理
念は見事達成されたもの
と思ひます。

私は長い間いろいろな
仕事をして参りましたが、
どこの役場にも農協にも
そして職員や理事監事に
しても、活躍している卒
業生が数え切れないほど
おり、いつも頼もしく力
強く思っております。

昭和の初期から二十年
まで日本は軍国主義の時
代が続きました。本校出
身の人材も「篤農たれ」
なかつた優秀賞を受賞す
ることができました。酪
農部門では、栃木県ホル
スタイン共進会で未軽産
牛の部で名誉賞をいただき、
関東ホルスタイン共
進会においても本県農業
高校初の準名誉賞を受賞
しました。これらは、日
頃から先生方の指導および
本人の努力による練習の成
果はもちろんです。同窓
会員の皆様の温かい御支援
の賜と存じます。あらため
て深く感謝申し上げます。

ご挨拶



平成十四年度卒
荒川普丸

平成二十年四月から同
窓会青年部長に就任しま
した。平成十四年度卒業
の荒川普丸です。よろし
くお願い致します。

本年度活動におきまし
ては、同窓会役員の先輩
方、事務局の先生方、ま
た同窓生の皆様方には、
日頃より、暖かいご指導
ご支援をいただきまして、
厚く御礼申し上げます。

さて、本年度は役員改
選から二年目になります。
今年度の青年部活動で、
前年度同様、役員会（親
睦会）を中心に役員間の
交流を深めつつ、学校行
事への参加をする予定で
した。

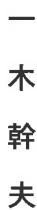
しかし、昨年から世界
中で猛威を震っている新
型インフルエンザの影響
で、毎年みなさんが楽し
みにしている学校祭が、
開催一週間を前にして中
止になってしまい私達青

年部もがっかりしました。
今年の青年部研修旅行
につきましては、個々の
仕事の都合が折り合わず
実施することができませ
んでしたので、昨年の研
修旅行を少しだけお話し
ます。

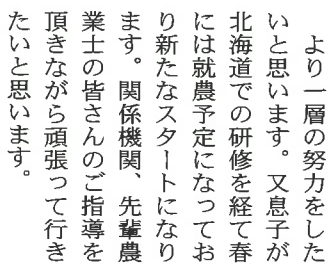
昨年の研修旅行は、青
年部初の北海道に行きま
した。冬の時期に行きま
したので、空港を出た瞬
間に北の大地を肌で感じ
ました。来年は、研修旅
行を実施できるようにし
たいと思ひます。



上野功



國母孝至

青
山
宗
市

同窓会の皆様におかれましては、日頃より本校の活動に對し、格段のご理解とご協力を頂き、感謝申し上げます。本年度PTA会長の青山です。

さて、本年は、戦後、長く続いて来た自民党政治から民主党への政権交代や、昨年のアメリカ発の世界同時不況が本格的に、日本にも影響が及びだし、本校の就職、進学にも多大な影響が及び、又、新型インフルエンザが猛威を振るい、学級閉鎖や学年閉鎖が起り、北陵祭も中止と言う大変残念な事態になってしまいました。

対外的な、PTA活動では、8月の「全国高校PTA大会」が沖縄であり、全国から一万人以上の関係者が集まり、栃木県からも百人近い、人数が参加しました。全体会は、高校生達の大々的なセレモニーで、始まり、沖縄はやはり、ダンスや古典芸能に大変、力を入れていました。

分科会では、「壬生高校」PTAの「交通危険箇所マップ」作成活動報告があり、交通事故が多発している、現状にマッチした活動に感銘を受けました。

十一月の「栃木県農業高校研修」では、三重県立相可高校を見学してきました。相可高校は、二つの高校が生徒数減少のため、統合して、総合高校になった高校でした。



この高校は、松坂市の近くに位置し、学校でも松坂牛を肥育して、共進会に出展して優秀な成績を収めていました。又、調理科があり、生徒達が土日営業のレストランを運営しています。勿論地域の行政の後押しもあってですが、営業日には遠方から来る、お客さんも多数いて、地域の活性化に一役買っていました。そのレストランで腕を磨き、他の店で修行をした卒業生が「先輩の店」として地元のスーパーに店を出す迄になっていました。

この様な高校の例もあるように、北陵高校も総合高校の利点を生かし、地域の活性化に一役買える様な、学校になる可能性を秘めた高校だと思えます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年度 優良同窓生

近況報告

昭和四十四年度卒 増山 清樹



我が家は水稲と酪農の複合経営をしています。父が一頭から始めた酪農は、私の就農、結婚、長男の就農といった家庭の節目に合わせ規模拡大をしてきました。畜産担い手整備事業による六十頭入り牛舎と養乾施設の建設が完了し、昨年の七月に新たなスタートをしました。現在の経営内容は水稲五百アール、搾乳牛五十頭、育成牛四十頭です。デントコーンを九百アール、イタリアンを六

ゆとりある農業を目指して

平成十六年度卒 生井 健斗



私は、平成十六年度に本校の生物生産科を卒業後、栃木県農業大学校園芸学科野菜コースに進学しました。卒業後アパレル関係の会社に就職し農業では味わえない社会の厳しさを経験しました。そして、二〇〇八年より就農し我が家の果樹栽培に力を入れ毎日汗を流し頑張っています。果樹栽培といっても主に梨栽培がメインとなっています。面積は三・五ヘクタール、他に桃やさくらんぼなどを三十アールほど栽培しています。労働力は、祖父母、父母、私の親子三代が主に働き、梨の花の花粉着けや摘果

んでほしいと思います。

今年の九月、我が家では初めてのインターンシップの女生徒一名を受け入れました。搾乳や仔牛の哺乳等をテキパキとこなす姿に本人の資質はもとより本校の行き届いた実習指導に感心しました。農業を志す若者が増える事を願いながら作業を共にしましたが本校の役割にさらなる期待をいたす所です。

現在、私は農業委員をしていきます。私に課せられた役割は農地利用の点検をし不法投棄や無断転用を防いだり農地の利用権利関係の調整、食糧自給率向上のための優良農地確保や遊休農地の解消

最近の農業情勢は、大変厳しくなっています。農業後継者、若い担い手の不足、遊休農地、荒廃農地の増加など様々な問題を抱えていると思います。こんな時代だからこそ、食料の安定供給や色々な面で消費者の期待に応えていく必要があります。

就農一年目から梨部会研究部に参加し、積極的に梨栽培に取り組んでいます。県試験場を見学に行ったり、他県の栽培方法を視察し良い点を取り入れたりと研究部の皆で収量の増収と品質の向上を目指し試行錯誤で立ち向かい頑張っています。今年からは、四日クラブにも加入し分野の違う若手農業者の人達とも交流を深め、意見交換などで色々なことを学んでいます。やはり、同世代の人達との交流は強い刺激になります。

青年部行事報告

平成十五年度卒 豊田 一樹



青年部の役員をさせていただいて、今年で二年目になりました。青年部の主な仕事といえますと北陵祭への参加です。毎年、焼きそばを焼いて、北陵祭を盛り上げている

四日クラブ活動について

平成十七年度卒 野原 理恵子



私は平成十七年度に本校の生物生産科を卒業し、栃木県農業大学校に進学しました。その後、社団法人国際農業者交流協会を通じ、スイスへ農業研修に十三カ月間行ってきました。

スイスでの生活は、有機野菜の勉強、家政やスイス文化など学びとても有意義な生活をしてきました。スイスから日本に帰国後、新規就農でナス栽培を初めました。海外生活と日本の生活の違いに戸惑っている中、農業関係の知人も少なく、知識や経験が乏しい私は、不安な気持ちでいっぱいでした。

そんな時「四日クラブに入らない。」と誘われました。四日クラブとは、県内の農業を営む青年の集まりで、腕、頭、心、健康の四つの心情を掲げて活動を行っているというものです。私の所属する真岡市二

この重要性を認識し、農業に従事していることを誇りに思い、健康に気を付けながら、ゆとりある農業を目指して行きたいと思っています。



国民体育大会に参加して

平成十五年度卒 阿久津 昌弘



本年度より本校の職員として働かせて頂くこととなりました。平成十五年卒業生の阿久津昌弘と申します。まず本誌掲載にあたり、今までもお世話になった恩師の先生方を初め、各方面で様々な面で御支援、御協力頂いている多くの方に、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、現在私は上記でもあげたとおり現在、野菜部にて実習助手として栽培にあたっています。以前より希望していた現場での作業では、高校生の時に野菜を専攻し培った技術・知識を日頃の実習の中で思い出しながら、生徒にいかに関わり、興味を持ってもらえるか日々悩む毎日です。そして同時にもう一つ、ライフル射撃部の顧問に就かせていただいております。この競技は私が高校生の頃から今現在も続けているのですが、自分が生徒に教える日が来るとは思っていませんでした。

部活の指導をするに共に私には一つ目標がありました。この仕事に就く前の年に行われた第六十三回大分国民体育大会において、予選突破である八位以内に入らず入賞できずに悔しい思いをしたため、「次の国体では入賞する」という目標です。そして昨年、第六十四回新潟国民体育大会を向かい、生徒と共に県一丸となつて大会に臨みました。国体への参加自体はその



事である当時の思い出を思い出し、久しぶりに会う友人と近況報告をしたりと北陵祭を楽しんでいました。来年度は今年度、参加出来なかった分、北陵祭に参加する事を楽しみにしています。来年度もよろしく願います。

また、役員をやらせていただくにあたり「私にできるのか。」と言う不安な気持ちでいっぱいでしたが、とても親切でやさしい仲間に出会って一年間頑張ってきました。

四日クラブを通じ、県内の農業を営んでいく仲間が増えました。私は農家として半人前ですが、今後四日クラブで出会った仲間と切磋琢磨し、栃木県の農業を盛り上げて行きたいと思っています。

本年度より本校の職員として働かせて頂くこととなりました。平成十五年卒業生の阿久津昌弘と申します。まず本誌掲載にあたり、今までもお世話になった恩師の先生方を初め、各方面で様々な面で御支援、御協力頂いている多くの方に、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、現在私は上記でもあげたとおり現在、野菜部にて実習助手として栽培にあたっています。以前より希望していた現場での作業では、高校生の時に野菜を専攻し培った技術・知識を日頃の実習の中で思い出しながら、生徒にいかに関わり、興味を持ってもらえるか日々悩む毎日です。そして同時にもう一つ、ライフル射撃部の顧問に就かせていただいております。この競技は私が高校生の頃から今現在も続けているのですが、自分が生徒に教える日が来るとは思っていませんでした。

部活の指導をするに共に私には一つ目標がありました。この仕事に就く前の年に行われた第六十三回大分国民体育大会において、予選突破である八位以内に入らず入賞できずに悔しい思いをしたため、「次の国体では入賞する」という目標です。そして昨年、第六十四回新潟国民体育大会を向かい、生徒と共に県一丸となつて大会に臨みました。国体への参加自体はその

年で七回目を数え、国体という独特の雰囲気にも慣れてきましたが、やはり毎年違う環境で行われる大会であり、さらに部の顧問として、県の職員として少しでも貢献するため、より上位を狙いたいなど様々な考えが頭をよぎり、試合では今までと違った緊張感がありました。それでもなんとか予選を六位で通過し、決勝へと進むことが出来ました。決勝では応援席にチームメイトが駆けつけてくれ、応援の言葉をかけてもらい、結果二位まで浮上することができました。ですが、一つまた大きな課題が出来ました。一緒に大会に参加した生徒達が入賞出来なかったことです。次の大会では生徒と一緒に入賞を果たす、新たな目標を胸に今後ともがんばって行きたいと思っています。

最後に、大会への参加や日頃から御支援御協力頂いている皆様方に重ねて、深く感謝申し上げます。今後とも温かく見守って頂きますよう宜しくお願いします。





農業クラブ会長として

三年一組 柳 あかね

私が農業クラブ会長になり、早一年が経とうとしています。昨年の先輩方から伝統ある農業クラブを引き継ぎ、一年間農業クラブの活性化のために活動してきました。

会長という立場になり、初めは不安やプレッシャー・戸惑いでいっぱいでした。しかし、私にとってこの一年は自分自身を成長させてくれるものでした。

今年度も多くの行事や活動があり、その一つ一つを役員と協力し成功させてきました。中でも昨

躍がありました。ぜひ、来年も今年以上に各種大会で活躍してほしいと思います。

今年一年間をふり返ってみると成功したことや失敗したことなど、たくさん頭をよぎりますが、会長という責任ある仕事のできたのも役員や顧問の先生方、クラブ員のみなさんのおかげだと思っています。本当にありがとうございます。

最後に、今年度は、農業クラブ関東大会が行われました。北陵高校は意見発表・プロジェクト発表区分食料の運営をしました。ここでは役員と協力し、成功させることが出来ました。また、各種大会でのクラブ員の活

農業クラブ活動報告

顧問 大竹 正浩

今年行われた栃木県学校農業クラブ連盟大会は、関東大会が栃木県で行われることから、関東大会の運営を想定したブレ大会として行われました。

各校とも白熱した競技内容でしたが、本校からは意見発表区分食料で石野由佳さんが優秀賞に選ばれました。また、プロジェクト発表では区分食料で田村恵理さん他九名、区分文化・生活で黒澤優さん他八名が優秀賞の選ばれました。

平板測量競技会では阿久津聖くん・菊池弘佳くん・久保拓朗くん・高山優基くんが出場し、他校の土木系学科を退け、最優秀賞を受賞しました。フラワーアレンジメント競技会では、多くの出場者を押さえ早川皇海さんが優秀賞を受賞し



平板測量の大会に出場して

三年二組 阿久津 聖

私は、十月に茨城県で行われた日本学校農業クラブ全国大会に出場しました。農業クラブの全国大会とは、全国の農業高校の代表が各部門の競技に出場し、自分たちの実力を争う農業高校の甲子園と呼ばれている大会です。

私達が、出場した競技は平板測量競技会というもので、競技内容は決められた場所を測量器具を使い、面積を求めて各代表チームと争うといった競技に出場しました。

メンバーは私を含め、三年一組の高山優基君、三年二組の菊池弘佳君、同じく三年二組の久保拓朗君の計四人で出場しました。

私は、菅井先生や印出井先生のご指導のもと学校の放課後や夏休みに毎日学校の農場や、グラウンドで練習をしてきました。そして、ご指導していただきみなで力を合わせた結果、八月に行われた栃木県の平板測量競技会で最優秀賞をいただくことができました。

そして、全国大会の出場も得ることができました。全国大会に向けて、また先生方にご指導してもらいながら練習を始めました。

全国大会は栃木県大会に比べて、面積が大きくなっておりとても難しくなっていました。練習中



フラワーアレンジメントの全国大会に参加して

三年一組 早川 皇海

私は、神奈川県横浜で行われた、第十九回全国産業教育フェア神奈川大会、フラワーアレンジメント競技会に参加しました。

競技が始まる前は、それ程緊張していませんでしたが、いざ始めるととてもそんな気分です。ことが出来ませんでした。時間も五十分間と短く、焦ってしまいました。

そうきんを忘れ、新聞紙で吸収させるなど、全体的に、思うようにいかない所が多く、反省しています。しかし、反省点も多々ありますが、アレンジをしよう、まず始めに、楽しかったという感情が浮かび上がりました。

今回のアレンジメントのテーマが自由だったこともその一つです。全体的に緑が多く、今まで私が使ったことがない花材がほとんどでした。どこに何を挿せば良いのかも分からず、自分の感性に任せ、色々と考えながら、アレンジをしました。今までは、自分で選んだ花材や花器を使っていたので、

あまり悩みなながらアレンジをすることがありませんでした。しかし今回は、花材も花器も、当日会場に行かなければならないという仕組みでした。そのため、今まで学校等でやってきたアレンジメントとは違い、自分一人ですべての作業をこなさなければならないという大変さがありました。



家庭クラブ会長として

三年五組 伊澤 千尋

私が初めて家庭クラブ会長としてのお話を頂いた時、私にこんな大役が務まるのかと不安な気持ちでいっぱいだったことを覚えています。三年間の家庭クラブでの活動は、自分自身を大きく成長させてくれた場でもあり、今となっては家庭クラブで活動できたことをとても誇りに思います。

調理講習会では、クリスマスやバレンタインなど季節に合わせたお菓子や食事作りをするよう心がけ、多くの方に参加していただくことができました。

時には失敗してしまいましたが、みなさんのおかげで、失敗でもおもしろく感じられました。

アルミ缶回収では、全学年の生徒のみならず、先生方にも協力していただき、集めたアルミ缶を換金してハンドソープを購入しました。

普段関わることもないクラスの方々にも協力していただいているのだと考え、アルミ缶を一つ一つ手で洗うたびに、たくさんの人達との「つながり」を感じることができました。

栃木県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会では、家庭クラブ員の代表として、意見発表を行いました。発表後、たくさんの方から「お疲れ様、感動したよ。」などと声をかけていただくことができたこと、私の心に傾けてくれた人がいたことを、とても嬉しく思います。また、他校の生徒の方々と関わることでいろいろな意見を聞くことができ、私にとって、とても大きな経験となりました。

先生方にも見守られ、家庭クラブ員に支えられ、役員の人々と協力し合い、充実した三年間を送ることができたのも、多くの方が協力して下さったからだ、心から感謝しています。家族のよう温かく、いつでも笑が絶えない、そんな家庭クラブの役員として関わることが出来たことは私の一生の宝です。本当にありがとうございました。



家庭クラブ活動報告

顧問 松本 歩

学校家庭クラブ活動とは、「創造・勤労・愛情・奉仕」の精神を柱とし、家庭科を学習する高校生を会員とした組織です。家庭科で学習した知識や技術を生かし、各家庭や地域社会の生活を充実・向上させるための活動を主としており、その実績は高く評価されています。



会長 三年四組 仙波 大輝

私が生徒会長となり、早一年の任期を終えました。あつという間だったなという気持ちと同時に会長という、大役を終えた達成感が込み上げてきます。

今年度も本校は「自転車盗難防止モデル校」に選ばれ、私たち生徒会、そして交通委員会が中心となり、防犯活動に尽力

季節はずれですが、講演『熱中症について』を聞いて

特活部長 小島 理 夫 (山岳部顧問)

私は汗をかける山が好きで、登山を趣味にしている。下界と違う自然、花(高山植物)を見るのは楽しい。山岳部は他と

違い大会が練習で、各校毎の夏山合宿が一番の行事である。高体連登山専門部では安全登山のため夏山を前に、いちいちク

員全員の協力の下、楽しんで活動しています。交流活動では、調理講習会として、年に三回行われま

本校の家庭クラブ活動は、教養福祉科が、福祉教育の中で家庭クラブ活動を展開しているところに特色があります。

本校の家庭クラブは、交流活動・校内美化活動・研究活動・奉仕活動を積極的に実践しています。

校内美化活動では、アルミ缶回収・ハンドソー

多くの行事があつた中、最も大変だったことは、やはり北陵祭でした。今年

一般公開は、とても盛り上がるので、その分生徒からは落胆の声が多く聞

予防知識が普及していないためである。

熱中症とは暑い環境で発生する障害を指す。土木建築の作業現場、独居老人、アトラクションのぬいぐるみ、駐車場の車

事故が多い。熱中症によ

プの設置・花壇整備を行つています。アルミ缶回収で得た益金で購入した

ハンドソーは、今年度は大活躍しました。新型インフルエンザの影響により、例年になく手洗いの習慣化が図られました。

役員は、定期的にハンドソーの残量をチェックし、補充に努めました。

来年度からは、生徒の発案により、アルミ缶回収を一時中断し、ペットボトルのキャップ回収

上の盛り上がりになくはないけれども、とてもプレッシャーを感じました。しかし、生徒会

を初め、北陵祭実行委員会、準備委員の皆さん、諸先生方の協力のおかげで、例年に負けず劣らず

の盛り上がりを見せ、大成功の内に、幕を閉じることが出来たと思つて

私は一年間、「会長」と呼ばれて過ごしてきました。照れくさくもあり

ますが、「会長」として

死者は年に数百人。蜂(三十人)クマ(数件)より

へ移行する予定となつて

今日、社会の状況が大きく変化の中で、これらの本校家庭クラブ活動の実践を通して、「豊かな心」が身につくことは

これからの社会を支える人材を育成するためにも意義あることと思

今後の家庭クラブ員の益々の活躍を期待しています。

最後になりましたが、力の足りぬ私を、支えてくださった役員の皆様、諸先生方、そして、こんな私を、「会長」と呼んで

くれた北陵高の皆様、本当にお世話になりました。

真岡北陵高校がさらに成長し、様々な場で活躍することを祈つてお

今までも本場にありがとうございました。

「日本や世界を相手に戦うアスリートであれば、熱疲労等の熱中症一歩手前

で常にトレーニングしているかもしれない。ぎりぎりの所で頑張ることがバフオーマンスを上げている部分もあるだろう。」という話あり。

今年度の進路状況について

進路指導部長 菅 谷 浩 喜

今年度の進路状況については、県教育委員会及びハローワークの統計によりみると、戦後最悪の数字で十月末の高校生の就職内定率が六割を切り

ました。それは昨年の九月のリーマンショックを発端に、百年に一度とい

われる不景気に世界規模で各企業が影響をうけ、さらに本年度は円高とデフレ等により企業の収益

は赤字、正規労働者の収入減や解雇など明るいニュースを聞く事はまずありませんでした。今年度

は一〇三名の生徒から就職希望者が出ましたが、例年とは異なり求人票の

慮すると山岳スポーツの熱中症事故は多い。山行中に熱中症事故が起きたら、安静、日陰、冷却、水分・塩分補給が必要で

ある。自分自身。三年前、足の付け根がけいれんし「脱水水？」と思いつつ山を歩

く。途中で水場はなく手持ちの水はわずか。ミネラル不足もあるだろう(多分)と、腕をペロペロなめる(効果?気休め)。「遭難!?」追い抜いた人を待つて。動けなくなつたらさっきの人が追いつくだろう。水をもらおう」等と問題大ありな考えで

進学状況につきまして

は政権交替、民主党が掲げる子ども手当が話題にのるくらい少子化が

進み、大学や短大においては学校間の難易度の差がより明確となるとも

に、校種間や地域間における二極分化が一層進んだ結果になつて

それに伴い、大学・短大・専門学校間において早期から生徒の獲得競争が激化する傾向に拍車となつ

ている。今年度は八十八名の生徒から進学希望が出

ており、大学は十九名、短大には十五名をはじめとする専門性を生かす分野に合格している。専門

学校には三十九名が合格。本年度は不景気とはいえ自動車関連や商業、動物関係の専門性を希望した

者が多く、本校卒業後はその専門分野に活躍して

なつた気がする。もっとも、気が付くと、軽くけいれんする事が近年何回かあった。鍛えられ(慣れ?)て飲まなくて良い体になったのか、感覚が鈍くなり気がついたら水分不足になつていたのか?と聞くとドクターの答えは「【鈍くなる】のでは



ほしいです。

進路を通して、昨年三学主任として本年の三年生を見てお

最後に、本年度も進学や就職活動において生徒の進む活路が見出されたのも、伝統ある本校卒業生の多方面にわたる活躍に感謝申し上げます。尚

本校の進路状況は次の通りです。

平成21年度進路状況

平成21年12月22日現在

進学	在籍生徒数	大 学						専 門 学 校 等		
		国公立大4	私立大4	私立短大	別科専修学校	専門性学校	能力開発校	専修学校	専修学校	能力開発校
男子	77	0	9	2	0	15	7			
女子	114	0	10	13	1	24	3			
小計	191	0	19	15	1	39	10			
合計			19			50				
就 職										
		管内	県内	県外	公務員	自営	未定			
男子	13	15	0	0	0	16				
女子	19	28	1	0	1	10				
小計	32	43	1	0	1	26				
合計			77							

頑張ってます。北陵生

平成21年12月現在

<ライフル射撃部>

(A Rはエア・ライフル B Rはビームライフルの略)

○平成21年度第9回全国ジュニアビームライフル射撃競技大会

男子団体優勝 辛島 輝義・大塚 祐弥・日下田貴俊

男子個人優勝 辛島 輝義・2位 大関 隼平

女子個人4位 菅谷 祥子

○平成21年度第35回関東高等学校ライフル射撃競技大会

10m A R 立射60発競技 男子団体優勝 萩原 光・日下田貴俊・大塚 祐弥

男子個人2位 萩原 光・4位 日下田貴俊

B R 立射60発競技 男子個人3位 大関 隼平

B R 立射40発競技 女子個人5位 菅谷 祥子

○第47回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会(インターハイにあわせて22名出場)

10m A R 少年男子立射60発競技 団体優勝(日本新・大会新)

萩原 光・大塚 祐弥・日下田貴俊・小池 友彰 個人6位 大塚 祐弥

B R 少年男子立射60発競技 団体優勝 大塚 祐弥・大関 隼平・古田 卓也

個人6位 大関 隼平

→全国大会優勝者知事表彰 及び 栃木県高校スポーツ賞受賞(7名)

B R 少年女子立射40発競技 団体4位 柿沼 彩

○平成21年度JOCジュニアオリンピックカップ

B R 立射60発競技 少年男子優勝 大関 隼平

○平成21年度第7回関東高校ライフル射撃競技選抜大会

10m A R 少年男子立射60発競技 優勝 大関 隼平

10m A R 少年女子立射40発競技 4位 柿沼 彩

B R 少年男子立射60発競技 4位 古田 卓也

B R 少年女子立射40発競技 優勝 菅谷 祥子・2位 高橋 里佳

<陸上部>

○第50回栃木県高校総体陸上競技大会

男子走り幅跳び 3位 熊坂 鷹太

男子800m 2位 仁平 裕也

○関東高等学校陸上競技大会

男子800m 2位 仁平 裕也

○全国高等学校総合体育大会陸上競技対抗選手権大会

少年男子800m出場 仁平 裕也

<卓球部>

○平成21年度栃木県高校総体卓球大会中部地区予選会

女子団体総合優勝 石崎珠理恵・大関 淳子・河上 彩・小林 雪菜

久野木麻衣・岡田 裕美・日下田祥子

女子ダブルス準優勝 岡田 裕美・日下田祥子

女子シングルス準優勝 日下田祥子

○平成21年度芳賀郡市卓球団体リーグ線大会

一般Eブロック優勝

岡田 裕美・河上 彩・日下田祥子・小林 雪菜・久野木麻衣

○第45回真岡市長杯卓球大会

シングルス 3位 日下田祥子

ダブルス 3位 岡田 裕美・日下田祥子

<テニス部>

○第26回上三川町テニス大会 2位 櫻井 未来・3位上野 佑香

○第4回高校1年生チーム対抗 2位 藤野 頌子・上野 佑香・本多摩耶

<日本音楽部>

○栃木県高文連日本音楽部春季発表会

<その他>

○第25回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト栃木県予選会

最優秀賞 相川 ちえ →全国大会出場

○芳賀地方芸術祭

詩部門 3年生の部 特選 葛西 利葉 他/俳句部門・短歌部門で多数入選

演劇部門 最優秀賞 荒井 信孝

「他」多数受賞

○下野教育書道展

奨励賞 鈴木 美貴・古田 一樹

○豆腐料理コンテスト 優秀作品賞 西村 朱貴・西田 仁美

○交通安全啓発ポスター 交通安全啓発ポスター 最優秀賞 鈴木 琴絵

○平成21年度防犯ポスターコンクール 村石 里愛・小林 彩夏・小口 知里

<共進会>

○フラワーアレンジメント 等農ク関係は農クのコーナー

国体に出場して

三年四組 仁 平 裕 也

九月三十日から十月六日まで、新潟県で開催された『トキめき新潟国体』に参加させていただきました。現地向かう車窓からは、多くの歓迎の横断幕や、のぼりを目にし、陸上競技の会場である東北電力ビックスタジアムでは、大河ドラマ『天地人』のテーマが流れ、インターハイとはまた違った地元の方々の思いや、県代表の責任の重さを感じました。

張りつめた緊張感のか、レースが始まりました。少年男子八百メートル二組目、スタートも良く全力を出し切ることが出来ました。タイムは一分五秒七二決勝進出にはわずか〇秒二八及びませんでした。残念ではあ

りましたが、大舞台で自己ベストを更新することが出来、悔いはありません。次のステップとなりました。

思えば、三年前『真岡北陵高校陸上部で全国大会に出場する』という目標を持って入学しました。しかし、入学当初は全国大会に自分が出場することは、まだ遠い先のことのように感じていました。二年の夏、インターハイ北関東大会決勝では、全国切符を目前にして逃してしまい、悔しさとともに全国出場への大きな壁を感じました。その



時、全国大会に行きたいではなく、必ず行ってみせると強く心に誓ったのを覚えています。そして、一年間、自分に負けない強い気持ちで練習に取り組み、念願のインターハイに出場することが出来ました。その後、国体は少年男子八百メートルの栃木県代表は、たつたの一つ。選ばれた時は、とても嬉しく光栄に思いました。

卒業後は、大学に進みこれから陸上を続けていきます。今度こそ全国大会の決勝に残って勝ちたいです。そして夢は日

日韓大会と国体に出場して

三年一組 萩原 光

私は、八月に宮城県で行われた日韓大会と十月に新潟県で行われた国民体育大会に出場しました。

高校生活の中で私は、一番様々な事を経験する事が出来た年だと思っています。日韓大会に出場するために、全国選抜と関東大会で上位三人ずつが出場することが出来ます。私は、全国選抜で上位三人に残ることができず、日韓大会に出場することができないと考えていました。しかし、関東大会で準優勝したため、

本人前人未到の八百メートル一分四秒の壁を破ることで、そのために努力を惜しまず、心・技・体ともに充実した選手を目指して頑張っていました。

といます。今まで支えてくれた方々や地域の皆さんの応援を体で感じながら陸上を続けることが出来ました。心より感謝いたします。

日韓大会に出場を決めることが出来ました。インターハイでは、出場選手が一人一人挨拶をし日本代表としての気持ちを強く持つ事ができました。

大会では、自分の納得のいく結果を残せませんでした。しかし、選手宣誓をやらせていただいたこと、そして、韓国の選手と交流ができた事は、もつと他の国の選手と戦い交流を持ちたいという意欲を作り、目標も作ることができました。そして、国体では入場行進で

初参加・初舞台・最優秀賞
(演劇同好会)

今年度当初、部員は二名だった。昨年、一昨年は脚本はできているのに、諸事情で大会への出場はできず、今年はどうしようかと生徒共々悩んでいた。短編の二人芝居を上

演じたところ、部員が一気に増え九名となった。やはり見てもらってなんぼの世界。同好会内の体温は上がり、今年こそプロロック大会出場、そして県大会へ向けて熱い思い



つくる事ができてとても良かったと思います。そして、このような大会にまた出場できるようにこれからもがんばっていききたいと思っています。

不況の中ですが本校の就職内定率が高い率で推移しているとのこと、最後まで頑張っていました。

今年もインターハイの射撃で、エアライフルビームライフルそれぞれで優勝。勝ち続けることの大変さ、生徒先生の努力を祝したい。

他に各種競技大会でのかずかずの入賞、更なる活躍を期待します。

編集委員

井澤 誠 館 芳衛
広田茂郎 猪野 正子
山口 秀明 豊田 一樹
荒川 普丸 宮田 尚之

編集後記

不況の中ですが本校の就職内定率が高い率で推移しているとのこと、最後まで頑張っていました。

今年もインターハイの射撃で、エアライフルビームライフルそれぞれで優勝。勝ち続けることの大変さ、生徒先生の努力を祝したい。

他に各種競技大会でのかずかずの入賞、更なる活躍を期待します。



が沸き上がった。GW明けには脚本の準備稿ができ、今回は兄妹の愛を軸にアクションをからめて観客を飽きさせない、また高校演劇ではなかなか見られないものを目指した。夏休みには、那須での演劇合宿講習会を挟んで、宇都宮市のアート・アンド・スポーツ専門学校で殺陣をみっちり指導していただき、九月に益子町民ホールでの「芳賀地方芸術祭・演劇部門」での初舞台に臨んだ。スタッフ・キャストも全員が初舞台、前日まで音響や照明の打合せ、衣装、メイク、台詞の変更や、見せ場であるアクションの稽古が夜遅くまで続いた。ほとんど休みなく芝居漬けの毎日を送った生徒達は、みるみる成長し役になりきっていった。そして芸術祭。特別に長時間のリハーサルをさせて戴いたが納得がいかなかった。誰もが初体験だけに、頭の中は整理がつかず混乱状態。加えて当日の午前中は検定試験。終了後にホールに集合というおま

け付き。午後には初舞台というのに、試験とは生徒達はどんな気分だったのだろう。若いということとそれだけで一つの才能である。果たして、舞台の幕は上がった。第一声から良く通る声が響いた。「大丈夫だ」第一声が一番大切だ。これが出る出ないで芝居が大きく変わる。打合せ不足でのミスがあったが、初めてにしては上出来だった。審査員からの質問も多く、好感触だ。後日、審査結果が届いた。最優秀賞・創作脚本奨励賞・個人演技賞(三名)。初舞台は予想以上の出来だった。この結果を受け、十月に行われる下都賀・芳賀高校演劇ブロック大会に向けて、さらに胸が膨らむ生徒達だった。